

**2012年10月 定例記者会見概要**

10月31日午後3時から、石原社長が欠席のため、武田信二専務による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<『火曜曲！』放送事故および「尼崎連続変死事件」写真取り違えについて>

10月23日放送の『火曜曲！』において発生した放送事故につきましては、視聴者の皆様、関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

事故後、視聴者の皆様から今後の放送予定について、多数のご要望・お問い合わせを頂いています。こうした事態を重く受け止め、当該事故で放送できなかった番組内容は、12月4日の『火曜曲！』の中で、再構成し、放送させて頂くことに致しました。

事故の原因は、放送用データの不具合によるもので、すでに対策はとっており、今後、同様の事故の再発防止に万全を期します。

尼崎市の連続変死事件に関する報道で、角田美代子被告、角田瑠衣被告についてふれた際、事件とは関係のない別の方の写真を使っていたことが分かりました。こちらについても、視聴者の皆様、関係者の皆様に、深くお詫び申し上げます。

<編成関連>

10月改編は、マーケティング調査をもとに、曜日ごとの視聴者の特性を意識したラインナップを組んだ。ファミリー層に狙いを定めて、木曜20時に移行した『イカさま☆タコさま』と、土曜19時に移行した『炎の体育会 TV』が、いずれも初回2時間スペシャルで二桁視聴率となり、好調な滑り出しを見せた。

新番組は、女性をターゲットにした月曜日の新番組『私の何がイケないの?』が、今週の放送で早くも二桁視聴率に達した。また、家族でご覧いただくことを目指した、土曜日の『ネプの超法則!!』、日曜日の『日曜ゴールデンで何やってんだテレビ』は、さらに新編成の効果をしっかり分析しながら、企画強化を迅速に行うよう指示している。

ドラマでは、日曜劇場『MONSTERS』が、プロ野球クライマックスシリーズの影響を受けながらも、初回13.8%、第2回も13%台と好発進した。金曜日の『大奥～誕生』も、さらなる上昇を期待している。

明日から11月だが、10月改編番組を軌道に乗せ、勢いをつけて年末年始へつなげていくため、企画強化月間と位置づけている。11月には、レギュラーバラエティの3時間スペシャルや、新企画の単発スペシャルなどを投入して、視聴率アップを目指す。

<営業関連>

上期のテレビ営業状況は、タイム、スポット共に前年実績を上回る着地となる。総収入では前年比およそ105%での着地をご報告できる見込みだ。

ネットタイムセールスは、レギュラー番組のセールスがほぼ前年並みで推移した。単

発セールスについては、「バレーボールの最終予選」、「サッカーの EURO」、そして「ロンドンオリンピック」という大型スポーツ単発が相次ぎ、前年を上回る見込みだ。

上期のスポットは、第1四半期は、前年の震災の影響による反動で大きく伸び、前年比 118%となった。しかし第 2 四半期は、オリンピックの影響などもあって前年実績を下回り、上期トータルでは 107%程度となりそうだ。

下期については、先月の日銀短観では、大企業・製造業の業況判断指数が3 四半期ぶりに悪化した。きのう、日銀が 2 か月連続となる金融緩和策を発表したが、先行きは依然不透明なため、とにかくレギュラー番組の視聴率向上に努め、現場にはコストコントロールを徹底するように指示している。

<事業関連>

映画は「天地明察」が、10 月 29 日までの公開 45 日で興行収入およそ 8 億 8400 万円と苦戦している。しかし、あさって公開の「のぼうの城」、そして来月の「大奥～永遠～」と時代劇の大作が続くので、楽しみにしていただきたい。

赤坂 ACT シアターでは、人間国宝・坂東玉三郎さん主演の「ふるあめりかに袖はぬらさじ」が、今月 21 日に大盛況のうちに幕を下ろした。続いて、立川志の輔さん 4 度目の赤坂らくごも大入りだった。今週の土曜日からは、草薙剛さんや、広末涼子さんをはじめ、日本と韓国を代表する俳優の皆さんが出演する話題作「ぼくに炎の戦車を」が始まる。

国立新美術館で始まっている「リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝」では、ルーベンスや、ラファエッロなどの名画が人気を集めているが、ウィーンの「夏の離宮」を模して美術品などを展示した「バロックサロン」が、あたかも宮殿の一室にいるかのような雰囲気味わえると、好評をいただいていると聞いている。

スポーツバラエティ『SASUKE』の海外へのフォーマット販売は、ヨーロッパでの現地版制作に向けて、オランダの総合制作会社と契約の基本合意に至った。『SASUKE』は、すでに 157 の国と地域で放送実績があり、世界的に人気を博しているが、アメリカや東南アジアに続いて、ヨーロッパ各国でも現地版制作が実現する運びとなった。

<TBSR&C> 入江社長

10/15(月)からの首都圏ラジオ個人聴取率調査で、TBS ラジオは連続首位の記録を更新しているものの、前回調査で大変厳しい数字が出ており低下傾向を食い止めたい。10 月新番組については今回調査で数字がでないが、新たなパーソナリティーが新しいファン獲得に貢献してくれることを望む。パソコンなどでラジオが聞ける「radiko」の利用データによるとTBSラジオのピークは午後 10 時ごろから深夜にかけてで、月曜深夜『JUNK』は関東エリアのシェア 70%を越えている。高齢世代を意識してケーブルTVでのラジオ放送サービスも検討しており、接触チャンスの拡大も媒体価値再評価の重要テーマであると認識している。

上期トータル営業収入のスポットは対予算・対前年をクリアするもののタイムの不振が大きく減収減益となった。10 月に入りタイムは積みあがりつつあるが、逆にスポットは前年クリアが厳しくなっており、通期での業績も全く油断できない。

赤坂BLITZでのライブ終演後に PC 等でライブ音楽をダウンロードできる有料サービスが好評のため、11 月から全国のライブハウスなどに拡大し同様のサービス「Live to GO」を展開する。シリアルナンバー入りカードの販売だけでなくチケットに特典としてもれなく配布するなどバリエーションを持たせて行う予定で、このサービスについて現在特許出願中だ。

以上